



TAKARAZUKA NPO CENTER

市民の手で市民活動を支える

特定非営利活動法人

宝塚NPOセンター

通信
No.66
2011. 3

「私とNPO」

特定非営利活動法人
こむの事業所
理事長 松藤 聖一



震災の朝、登庁して駆けつけた現場では、母親と4人の子供が倒壊した家屋の下敷きになっていた。近所の人達が懸命に瓦礫をどけようとしている作業に加わったものの、クライストチャーチの現場と同じく、人力では歯が立たなくて、気持ちは焦るばかりであった。

壁土の中からお母さんの手が、助けを求めるように現れ、男の子3人が懸命の作業によって駆けつけた救急隊に預けられて命を守られたが、お母さんともう一方の手に抱かれていた小学校1年生の女の子は助けることができなかった。助けを求めるその手の映像は、目に焼きついて離れないものになったが、近所の人達の懸命の作業で3人の子供たちの命が救われたことも、私の心に深く刻印された。

誰もが助けを求めなければならないときがある。私事になるが、一昨年初めての孫を授かったときに、自分自身と孫の母親である娘の来し方を見ても、これからの人生にはたくさんつまずきが待っているに違いないという思いがした。しかし誰もがそうであるように、幾たびも転んでは起き、つまずいては傷を癒して進む道に、必ず助けしてくれる誰かがいて、助けてくれる社会があって、ささやかな幸福にめぐりあえるのではないかと考えた。同じように、孫がこれから生きていく困難の道のどこにでも、だれかが必ず手を差し伸べてくれるそんな社会であることを私は確信している。

大分以前のことになるが、米国のミシガン州に住む友人の長男が深刻な不登校になった。友人は自身がソーシャルワーカーでもあり、地域の様々なボランティア活動グループの支援をしていたから、地域社会への信頼を持っていた。長男が社会とのつながりをもつことは、家族だけの努力ではできないことなのかもしれないが、必ず手を差し伸べてくれる誰かがあることを知っていた。やがて出会った同じ町のNPOが運営するフリースクールでの10数年が長男を社会につなげてくれた。

誰かがやらなければならないことは、必ず誰かがやっているというそんな社会であることが必要なのではないだろうか。時には自分しかする人がいないというときがあるかもしれない。皆が自分の事として考え、時には自ら実行して社会の問題を解決することが普通に実行されている社会が本当の福祉社会ではないかと思う。

私たちのNPO法人こむの事業所は、今社会に求められていることを実行しようと、皆で考え、研究をしてうまれた。障害をもつ人をはじめ、仕事を得にくい人達に仕事を創り、生活サポートも合わせて提供することで社会的排除のない地域社会をつくることを目指している。

この4月末には売布にある福祉コミュニティプラザの一角に拠点になる施設が完成する。実際にはささやかなことしかできないのだが、皆んなと一緒に、どんな場合にも互いに手を差し伸べることができる地域社会をつくっていくための一歩になればと願っている。

過日亡くなられた森綾子さんはずいぶん多くの人達の背中を押してくれた人だ。私も押され、時には力が強すぎて転びそうになったこともあったが、誰もが手を差し伸べ、だれもが支えられる社会を目指した同志であった。ご冥福を祈る。

『Ayako の事務局日記 本音 de トーク』は本号で最後のトークになってしまいました。今年1月13日、病軀をおしての「宝塚・語りつく震災」のシンポジウムにコーディネーターとして参加された後、僅か40日目に帰らぬ人となられたからです。謹んでご冥福をお祈りいたします。

思い起こせば、森さんは阪神・淡路大震災初期に全国から駆けつけた救援ボランティアのコーディネーターをつとめながら『これからは地元市民が助け合っの市民力で頑張らなくては！！』と悟り、市民活動のための支援事業の立ち上げを心に誓い、平成10年（1998年）『宝塚NPOセンター』を立ち上げました。その後の森さんの活動については『内閣総理大臣表彰女性のチャレンジ賞特別部門～「新しい公共」～』の受賞者概要に掲載されている通りです。（宝塚NPOセンター通信 No63 2010年7月）森さんのミッシミッションは宝塚NPOセンター関係者全員に受け継がれていきます。宝塚NPOセンターは今後も更に力強く頑張っていきますので何卒よろしくお祈りいたします。

理事長 竹内 浩

今年の1月13日に、宝塚市と宝塚NPOセンターの共催で「宝塚・語りつく震災」のシンポジウムがあり、コーディネーターとして参加いたしました。この催しは昨年の阪神・淡路大震災15周年記念に引き続き2度目で、今年もこうして語り継ぎができて良かったと思っています。あれから16年経ったのだという思いもあります。このような語り継ぎは毎年行っていかなければならないと改めて感じました。



私は、震災時、社会福祉協議会でボランティアコーディネーターをしていました。当日パネリストとして参加して下さった元宝塚市の職員であっ

た黒田さんと松藤さんとは、その頃からの仲間であるで同窓会で顔を合わせたような、そんな気持ちになりました。震災の時は全国から5万人の方がボランティアとして宝塚に来て下さいましたが、当時宝塚にはボランティアコーディネーターが少なく、少人数でふらふらになりながらやっていたのを思い出します。

私は震災の4日前に宝塚から豊中に引っ越し、そのせいで、本当に申し訳ないことに我が家の被害は少なく、豊中から食料を買い込んで宝塚まで持ち込み、みんなと復興にかけました。その時テレビを見ていたら、体育館に黒田さんがおられたのです。その時は本当に来てくれたのだと思って涙が出ました。黒田さんは、宝塚市立病院の副婦長さんでがん患者のホスピス系に携わっておられ、ボランティアセンターに登録して下さい、夜中でも走ってボランティアに行して下さいました。

松藤さんとは「高齢者問題を考え行動する会」で宝塚の福祉を何とかしようと、役所、ボランティア、市民、施設の方々と連携しながら活動しておりました。ですから震災時に宝塚が連携して動いたというのは他のまちにはなかったことではないかと思っています。

ボランティア本部は2月末に解散しました、それはいつまでもボランティアに頼ってはいけな、自分たちが頑張らないといけなということで全国からのボランティアの方に帰っていただき、あとは私たち自力で頑張ってきました。

その後、ボランティアだけでは組織としては成り立たないので、民間の非営利組織としてしっかりしたものを作ろうということで、現在の「宝塚NPOセンター」を3年後につくり現在に至っています。あれから13年、パートナーシップから協働へ78のNPOができ、素晴らしいまちになりました。これからも「協働」を核として、市民一人ひとりが主役のまちづくりを目指して頑張っていきたいと思ひます。

森 綾子

****第5次宝塚市総合計画策定 総合計画冊子完成****

～誰でもが理解できる第5次宝塚市総合計画を作りました！～

2011年から10年間の宝塚市のめざすべき姿を示す「第5次宝塚市総合計画」が、4月からスタートします。

この計画は、宝塚NPOセンターが宝塚市と協働で事務局を担い、市民が参加した「検討市民会議」や「審議会」を経て、多くの方の意見をまとめ2年間をかけて作られたものです。

この計画のキーワードは「市民の力」と「協働」です。

38の施策すべてに「市民力の発揮」の欄を設け、市民がまちづくりにどのように関わっていくかを示しています。その実現のためには、難しい言葉で書かれている内容を誰でもが理解できる言葉で書き、多くの市民に読んでもらうことからのスタートと考え、宝塚大学と協働し「マンガ版」の製作をしました。

4月には皆さんにお渡しすることができますので、ご希望される方は、ぜひセンターまでお問い合わせください。

写真：宝塚NPOネットワーク会議



*****第2回宝塚NPOネットワーク会議開催報告*****

2011年2月5日(土) NPO法人9団体11名と起業を考えている相談者6名が参加しました。今回の会議は福祉系分野に絞り「福祉分野での新しい取り組み」をテーマに男性介護のつどい場を開催した特・スマイルウェイ、高齢者や障害者等の制度以外のサービス提供にも力を入れる特・セシリア、特・絆.jpにお話を伺いました。それぞれに福祉の現場で利用者が一番必要とするサービス。例えばターミナルケアや心のケアが出来るヘルパーの養成や生活一般の困りごとの解決等、利用者に寄り添ったケアに取り組んでいます。

意見交換会では「食べていける介護事業をめざしたい」「日常業務の中で、なかなかスタッフとのコミュニケーションを取る時間が捻出できない」「介護保険制度で出来るサービスには縛りがあるため、助け合い事業として付加価値のあるサービスを提供していきたい」など活発な意見が交わされました。またNTT西日本より福祉分野のテレビ電話の活用に向けて、実際にテレビ電話を持ち込み参加者からの意見を参考にいただきました。(写真：上・中)

写真：兵庫県 NPO法人認証式
特・水道施設整備技術協議会



データでみる

宝塚+阪神北エリアのNPO法人

	10年3月	11年2月
全国		41864
	39734	(1月末現在)
兵庫県	1496	1608
尼崎市	84	89
西宮市	115	129
芦屋市	41	42
伊丹市	38	41
宝塚市	75	81
川西市	29	34
三田市	33	34
猪名川町	7	8
合計	422	458

2010年度に設立した『宝塚市内NPO法人』

(※設立に際して、当センターがサポートしたNPO法人)

- ① セシリア (障害者及び高齢者に対する生活支援、社会参加の促進に関する事業及び助け合い事業)
- ② 宝塚スポーツアンドフットボールクラブ(サッカークラブ運営 15歳以下、大人のスポーツ活動 18歳以上、レクリエーションスポーツの普及)
- ③ 水道施設整備技術協議会 (日本、東南アジア、南太平洋への安全安心な飲料を安価で提供する技術の普及)
- ④ 日中会計税務交流機構 (日本・中国の企業、市民に対して会計税務知識の普及促進に関する事業)
- ⑤ 絆.jp (高齢者、障害者(児)に対して生活支援及び社会参加の促進に関する事業)
- ⑥ PONO (障がい児(者)の芸術支援、障害福祉サービス)
- ⑦ たからづか振興協会 (宝塚の特産品紹介、地域イベント活性化などの地域振興)

2011年度「NPO・コミュニティビジネスの日」相談日のご案内

「NPO・コミュニティビジネスって何だろう?」「ちょっと興味がある!」「ぜひ学んでみたい!」「ぜひ立ち上げてみたい!」そうお考えのみなさんに、宝塚NPOセンターのスタッフが、NPOの現場の声などもお伝えしながら、さまざまな相談に応じます。お申込みは前日までにお願いします。TEL:0797-85-7766

2011年度の相談日は以下の通りです。是非、お気軽にご利用下さい。(8月、1月はお休みです)

4月15日(金) / 6月15日(水) / 7月15日(金) / 9月15日(木) / 10月15日(土)
11月15日(火) / 12月15日(木) / 2月15日(水) / 3月15日(木)

「東北地方太平洋沖地震」謹んで地震災害のお見舞いを申し上げます。『救援支援金』募集

宝塚NPOセンターでは「阪神NPO連絡協議会」でネットワークを結ぶ、NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク(以下 NVNAD)が救援支援金を募集していますので、ご紹介させていただきます。

※銀行口座三井住友銀行西宮支店(普通)7022161 名義 NVNAD国内支援口

※ゆうちょ銀行(郵便局)口座番号00900-5-29560 名義NVNAD国内支援口

問合先: NPO法人NVNAD(10:00~17:00) TEL:0798-34-9011 FAX:0798-34-9022

ベニシアさん 四季とハーブ

講演会のご案内

♥宝塚NPOセンターの会員『宝塚ハーブを楽しむ会』からのお知らせです。著書やテレビでもおなじみのハーブ研究家のベニシア・スタンリー・スミスさんの講演会が地元宝塚で開催されます。春のひとつとき如何ですか?

♥日時: 2011年4月21日(木) 13:00~15:00 ♥場所: 宝塚ホテル「すみれの間」

♥参加費: 3000円(ハーブティー・クッキー付) 参加人数: 120名 ♥後援: 宝塚市・宝塚市教育委員会

♥申し込み先: 宝塚ハーブを楽しむ会 ^{やがはら}谷川原さん TEL&FAX: 0797-77-1193

会員募集・継続のお願い

あなたの志が社会を変える活動を支えています。NPO・NGOの先駆的で創造的な活動は、変革の担い手としての新しい市民社会の実現に貢献しています。志と情熱をもって社会の課題に挑戦する人を支援しています。皆様の会費や寄付は活動資金として、ボランティアとして提供される知識や技術は活動の活力となっています。どうぞ一緒に会員としてNPO・NGOを支える活動に参加してください。

[正会員]個人会員 10,000円/団体会員(NPO・市民活動団体) 10,000円/法人会員30,000円/[準会員] 3,000円

銀行振込: 三菱東京UFJ銀行 阪急宝塚出張所 普通預金3629422口座名義 特・宝塚NPOセンター

郵便振替: 口座番号 00930-8-77117 口座名義 宝塚NPOセンター 郵便振替用紙をご利用下さい

ご支援ありがとうございます(順不同、敬称略 2011.3.15 現在)

新たに入会された皆さん【団体会員】 特・水道施設整備技術協議会

寄付をいただいた皆さん 鶴丸悌二 特・いきいきシニアゼミナール 岡原 美恵子 特・富貴国際交流協会

16年前に阪神・淡路大震災を教訓にセンターは立ち上げられ、そして今年に一度といわれる「東北地方太平洋沖地震」を目の当たりにしている。先日亡くなった森さんがいたらどうしていただろうと…思いが巡る。しかし地震から2日後には阪神間でもNPOが募金活動を開始し、市民も『何が出来るのか』と考えてボランティアや物資の提供など頻りに電話がかり、受話器を握る手にも力がこもる日々である。(Y.O)

特・宝塚NPOセンター

〒665-0845
宝塚市栄町2-1-1 ソリオ1-3F
Tel 0797-85-7766
Fax 専用 0797-85-7799
利用時間 9:00~18:00
休館日 日月・祝日・年末年始
Email zukanpo@hnpo.net
URL <http://voluntary.jp/zukanpo/>

生きがいしごとサポートセンター阪神北

Tel 0797-87-4350
Fax 専用 0797-87-4351
Email cdc@hnpo.net
URL <http://voluntary.jp/hnpo-net/>

*阪神北 NPO ハウスは3月末で閉所させていただくことになりました。長らくのご利用ありがとうございました。